

「気象」とは、気圧や気温など大気の状態を表す意味の他に、風や雨といった現象をも指す言葉です。私たちの暮らす地球上では、どこに居てもこの気象とは無関係ではられません。

非常に身近な自然現象である気象ですが、そもそも何がもとになって起きているのでしょうか。

地球は水の惑星といわれるほどの水が存在し、また重力によって捉えられた大気は、上空から熱圏、成層圏と層をなし、そして最下層の対流圏では、高度とともに気圧が下がっており、そのため気温も次第に下がっていく構造になっています。

ここに、大気を動かすエネルギー源といえる太陽放射が加わることで高緯度と低緯度、また海洋と大陸等の間に温度差（気圧差）が生じ、結果大きな風の流れが発生し、上昇流や下降流もまた生まれることとなります。大陸や海洋といった広大な場所では、それぞれ性質の違う気団を形成され、こうしたことが基となって低気圧や高気圧が生まれることとなります。

気象という現象が起きる原因をまとめますと、絶妙な厚みを持つ大気と、豊富な水の循環、そしてそれらを動かす力となる太陽放射が、日常の大小様々な気象現象を起こしているといえます。

その結果、地球上のどこか特定の場所のみ極端な高温となったり、反対に極端な低温となるのを防ぐ、いわば大気をかき混ぜる働きをもしているわけです。

また、地表は大陸と海洋の分布にくわえ、山脈などの凹凸な地形があり、また地球の地軸の傾きと公転面の成す角度は、太陽高度角の年変化を起こし、それらの複合的な作用で地表の熱分布を始めとした変化が生まれ、多様な特徴を持った四季が生まれています。

自然の摂理といいますが、雨や風といった日々の現象から季節ごとの気象に至るまで、この地球で起きるさまざまな気象現象は、地球が誕生して以来変化をしてきた結果もたらされた、まさに奇跡の産物だといえます。